

政策提言に向けた論点整理（案）

本委員会では、運営方針において「持続可能な水泳授業に資するため、学校プールの在り方について調査・検討を行い、委員会での議論を通じて必要な提言を行う」こととしている。

持続可能な水泳授業を行うためには、安全性を確保しつつ教育的効果を発揮するための安定性も求められる。また、公共施設マネジメントの観点から学校施設における学校プールの在り方も検討する必要がある。

このため、今年度実施した本区における学校プールに関する取組に関する質疑、先進自治体への行政調査、区民等との意見交換会の内容を踏まえ、政策提言に向けた論点を以下のとおり整理する。

第1部 安全で質の高い水泳授業について

論点1 安全で安定した水泳授業の実施に関すること

猛暑や豪雨など気候変動への対応や熱中症対策、安全管理を徹底しながら、児童・生徒の学習機会を安定的に確保する方策について検討する必要がある。

論点2 教育的効果に関すること

泳力向上や水難事故防止教育など、水泳学習本来の教育的効果を維持・向上させるための指導体制や実施方法について検討する必要がある。

論点3 実施体制に関すること

教職員の負担軽減、安全管理体制の充実、専門人材の活用など、持続可能な水泳授業の実施体制について検討する必要がある。

第2部 学校プール施設の在り方について

論点1 施設整備・維持管理に関すること

学校プールの老朽化や維持管理・更新コストを踏まえ、学校改築との整合を図りながら、持続可能な施設整備・維持管理の在り方について検討する必要がある。

論点2 学校プールの機能に関すること

教育施設としての役割に加え、消防用水など地域防災の機能も踏まえ、多面的な役割を考慮した学校プールの在り方について検討する必要がある。

論点3 施設活用・整備方針に関すること

屋外プール、屋内温水プール、拠点型プール、民間・公共施設の活用、学校間共同利用など、多様な実施手法について、教育的効果、安全性、財政負担及び費用対効果を総合的に勘案し、中長期的な視点から検討する必要がある。